近ごろ樵夫の世を乃ちとなる所多く
多くは世人の招きすゝめや門人の
かゝらひけるゝ寸法えらみうけて
我庵乃くさ枕　いろは乃の枕冬
あゝけもの　みてこゝろ乃ゝ
世林之のしをゝて　彼をあくこれを
ふゝあゝたゝふ冊ゝ乃ゝ　亥の年
寛政五年　己酉

玄化堂
甫尺

年ノ上

家菴集序

世とりんかハ幸芳菴のえゝしひおりゝる集あり
きゝ紀一二後板ゝるやま田のハゝり彦ゝ
世きひゝてゝいゝんの乃巨擘とゝてきやさしき
もとりきゝ我の翁れ風流をきゝしひ
いにやうのえんにユゝあゝるみやひをとゝ
めんゝさゝるゝ月のきんまハ雅をかこちて
秋をかゝゝしひ花のゆゝ無ホハ情名の情こ
きゝりゝきをゝしゝつゝ名実をうつ

情をとんゝゝやきゝうゝのきゝふもかゝひ
てんとをきゝゝ一ひとをきひハうゝらを
おゝゝ百年のゝゝんゝりをきハ名んゝ思ひ
ゝ高樹の山詩ハ近ゝれゝおりゝ人のゆゝし
ゝゝゝりゝきれゝきゝにめゝりにきゝり
きひのこゝ詩のいゝとゝゝ世ゝ保ぬゝてゝく
ハなゝりゝゝ名きゝとゝゝゝいハゝゝきまゝ
ゝゝてゝゝのゝりのゝゝりゝ和ゝゝ人の
ゝゝかゝゝゝ云ゝゝるみゝんゝゝかゝきを
ゝひゝゝ名をゝゝとやゝのひゝん位ゝ仏

彦兵衛殿の志しぬかるとなく
はりまし今ハ木ふ枝をうち丸葉葉と
なりてぬしなきかちとふ什茂稽の磯
伝をその つゝハいさ志ゝ葉其元の葉を
をしとちりよりもちに拾かゝ拝り
をのゝ伝る四和丁の支のゝ出月の声
乃日かゝれ り囲の頂士坡仄序

序

小倉を林藪ゝ志むといるをきゝつるも
あゝ伝何ゝと仙つ毎れ ゝ紙ゝの多和
ゝゝゝゝとよりゝれ志ゝゝゝゝゝ神無月乃す人
はうゝと市中に無考彦紙出を つ伝ゝハ
ゝ伝ゝ慢貧を変ゝるも頂ゝ称ゝれ
たけの姉ゝゝゝゝれいほり旬れ化をの
つゝ教子ゝ志ゝゝゝゝ仙ゝゝも発めり
ゝゝゝ出ゝゝゝ考ゝゝゝゝ枝をゝりの
葉葉ゝゝ考ゝゝ出せゝゝゝ出つまゝ紀

友とちよをはとひ云はくるまに二巻之
はきれ俳諧連歌とをかりぬこれをとり
いわとかつらるとも乃ちこのいみ〳〵をこの
ゑるゆへなり〳〵

寛政ろのえ午の冬十二月　宗居士

俳諧我菴集上巻

家菴を校をりの落葉小　樗良

をりはしに蘆又火桶張　宗居

このゝ夕乃風ゆやゝ小低ゆて　坡仄

ゝきひ畑く之ほの陽来新　野梅

月の秋にテ鶏を小ゝを少ゝ遠　虎國

ゝけゝきゝ我云はのりゝ　蘿父

ウかゝ猫の目ゝ情も之遠遠者　不獣

ゝひ乃ゝ西日さゝ云　乙序

咲分のさくらを見に来る菩提寺　尾合
嫁子孫を乃そうえんを出た　茶州
駕舁乃よう来て来て　居
生こしたれを八幡のみや　良
ひいひと鞍ら　仄
的うむちうつ身のあけの　父
山ちう命を寄ときうきて　國
こわれしほうあ系流　居
二月八日のさくら乃そう　良
兵八生と主し孤ちく　梅

我上一

板乃ふ木のんて来た八雑子
乃ふきく蔵ちあうさちうく　仄
車押れ胡岡乃つうしあうけう　國
夜籠を引くく赤土乃山　居
ひさりく塔ら跡皮を干て垂　父
上人格の市うう　獣
杉垣乃うちも所ちも養所し　梅
函降出しき　國
家意そいりう所の旅乃立　仄
うう乃きけ良乃うく　父
　　居

[illegible]乃月片[illegible]き嘗の内　灰
老[illegible]ら庶乃[illegible]き下[illegible]　國
り秋小[illegible]皮買と[illegible]　居
まうたこのの[illegible]ほめ[illegible]　灰
門口に[illegible]れ下[illegible]次ヶ乃さと　父
[illegible]こ乃上[illegible]う[illegible]　鶏　國
咲[illegible]む花之日和乃[illegible]　梅
玄乃川辺のい[illegible]ひろふ[illegible]　灰

樗良　三句
宗居　六句
坡灰　七句
野梅　四句
虎國　六句
蘿父　五句
不獣　二句
乙序　一句
尾合　一句

茶州　一句

峡流よりもむ森しく
為梅屋のむりをかな

面乃表の寸うしき弾印　坡仄
かとりい主しく灯のきゆると坡　虎國
うつきをる浦北笠屋に者うく　樗良
かしの芽の芽ふ一き乃　魂　宗居
なつうう肥ちの主北吹ちきし　野梅
月をう場を望北振きむ　仄
をうを結月作ふ本孫うり　國
与作うふのうつくし　良

かう池を北へ北ハ枇杷の庄　居
昔取をうけの乃ちをしうふく　梅
ゆうに埋代の鉢よとをうく　仄
わうくをしうり山海の鼻息　国
正月や塔桶かうはけし返入口　良
服さし賞しをうゆうなり　居
江戸うも名古屋き花の古てを　梅
きのふもうもめしに咲うし　仄
名月に門をりうと呉放し　國
雪の芙蓉う堀のうくやく　良

有馬の腸ゝ[illegible]者乃海の風　居
[illegible]　梅
下駄の歯の書[illegible]　仄
垣を結のゝ[illegible]　国
浴室も三ゝ[illegible]　良
[illegible]　居
[illegible]ふ[illegible]けの[illegible]を吟[illegible]　梅
[illegible]　仄
小紀やう[illegible]の天竜ゝ　國
松ゝ[illegible]　良

峠茶の[illegible]　桂突ゝ　居
鬼ゝ[illegible]　梅
ゝむ文ゝ[illegible]の下乃火に焼ん　仄
一[illegible]　國
町ゝ[illegible]小便[illegible]乃うちつゝ　良
[illegible]の花[illegible]の石[illegible]　梅
遠ゝ[illegible]見吹ゝ[illegible]花さゝ　居
[illegible]ハ[illegible]　國

坡仄　七句　　宗居　七句
虎國　八句　　野梅　七句
樗良　七句

月ほとゝぎす山ハ仏ゝの一ときり　虎國
さとハまゝめゝさけ言のゝゝきる　樗良
立ほゝ箕うちうきゝる秋ゝ　不歇
ゝゝにかゝゝさゝゝ玉をいとまて　坡仄
芙粉も孔雀もかまに兼ゝゝ　蘿父

信ゝゝゝむ夜のゝゝ寄ゝゝ　宗居
夜ゝゝ船を湖ゝに逢ゝる初午ゝ　良
ゝのとうけゝゝきゝ乃疱瘡　國
かゝ英うとゝゝ八絢をさくゝゝ　仄
足ゝのゝゝうゝ風ゝ告ゝを　歇
生弱山ゝ孤のしゝ言年ゝゝ　居
割刀をゝゝ米ゝゝゝゝ由く　父
逸ゝのいけも乃大ゝ先ゝゝ　仄
雪ゝ船日ゝ　ゝほゝを出ゝ　國
名月に西ゝ　ゝ孔清兄寺　良

ぬを人うとて赤やぬ萩ぶも　居
うゑ　さは香ゆて秋の花なるめ　仄
塩ふまたるゝ色しの乃味おき　父
八重ゝ山重のゝ中ゝ丈音信　獸
おうき秋中をうゑうつて　良
ゝつゝに君屋敷ゝあれ八秋の時　同
志のひゝ業ゝ湯をきめうり　仄
茶の戸にゝれ尖き音乃入　良
登をこゝゝ雉羊乃時ゝ　獸
在母坂ゝつゝ風ゝ抑ゝ　父

國たつ山れ八紅光の順袖　國
ゝゝと花吹下下下坂　居
飯をゝゝゝ吉の行ゝ　良
向ひとゝ春日条のゝ　仄
懷乃子れ袖紀　自　國
海の秋妻もゝ尋あむ　獸
門乃ゝ条ゝ　父
有ゝ紀法のゝ　居
結ゝ法ゝ首を投ゝ　仄
白はやのゝをゝ村西に　國

をうれし人をとりあつめし　父

帛國　七句　　坡仄　七句
擽良　六句　　蘿父　六句
不獣　五句　　宗居　五句

をしあつさうにのるまきのふる　宗居
花として人乃むきゆるなり　坡仄
蛇ほうの沢迄の宿を屋くれて　帛國

数歩くこの宿のかうあつし　蘿父
屋の月出るを面白て風ほうき　擽良
いかこきはくるる蕨のをるめる　居
むらひ来て小鏑入しる牛莖け　不
木くくしきき山の神前　四
誰人乃骨の沢基はしもち　父
丸木をしたて蔵たゆひうり　良
呉服のう切るしをりさ寒句ハ　居
今やう渕小月をくるもも　仄
武士乃ちくを居て立る書の数に　國

桔梗の花のうしろに月かゝるなり　父良

富士高む梅屋敷にて

ちら〳〵人の幻うつ世ちり　居仄

むくえをて乞食にうまる茶も苟紀

白乃うりこむひろき戸乃口　國父

うちにのと稽をうき出る紅の者

ゆきれさ敷て嫁を訪り発る　京

たにしてのこう有しをはう作らんと

四〳〵うちうち

新あけし事故佛て法出し　居仄

笠に外郎〳〵売や　國父

何ちむ〳〵此巳の羽吉ふさ〳〵流

巳をうりふ〳〵酒を呑乃紀

変らのに戸板一枚まいり強し　立居

面目の稽百丈をうり　居父

ひつこうと素乃る蛭矣紀〳〵

山ふ乃に腥や出れ博る　國仄

重身の新うし〳〵の雲車

乃乃衣雲ハ乃り田娘りも　居

秋の夜ゝ産業へ出をしゝ下女　父國
すゝむけしゝる博士乃玉ゝり　居反
塔風呂ゝゝ由き雨をうゝセつゝ　反國
八十の翁乃たゝしなりゝるを　八
兒たちゝ多云見をる花の下
をゝしの上ゝゆをぬきをゝ

宗居　八句
坡反　八句
弔國　八句

羅父　八句
樗良　四句

誹諧我菴集下巻

春之部

立春

門松やうしとにそなへし灯かな　弗國
蓬莱や父うかゝつくおりたくま　宗呂
かにてゝきて焼しき初日うる　坡灰
たひうけや一日うゝ敷年礼状　不歇
新玉の歯ひ花やゝもる雑煮ふ　野梅
四乃宮えうとせハ志のみとりふ　守紀

い芳のうゝ富士よりうゝまあかり　麻斎
旅人りこうけさをて雑煮ふ　蘿父
ひうをうゝ老ないほんと彩の春　樗良

若菜

志ゆやふ芽ゆ中る儀り郷　坡灰
指のこセ水りゆる根白草　南河
むつまゝや見青いつる芽薯掲　野梅
ひうふつゝひうりいうぬ葱のうう　蘿父
山うけや道えうんの芽薯つく　虎國

きのふよりふやしけるまゝ若葉かな　樗良
青日野や吹き寄にぬるゝ若葉哉　乙序
吹ちらしけるれの中ゝとりかな　不呆
さそうんて若葉つむ娘ゝ哉かな　宗居

梅

梅ゝ香や風かぐはしく糸のごとく　樗良
菅祢宮
梅ゝ香う有情を告るかぐはしかな　仝
踏つゝきや立ゝ初かさんに香乃人　宗居

めしや達山場の新乃むめの花　野梅
峯ゝにや霞ふさ〳〵梅乃花　弗國
訪へうの庵やむめのつゝひを　坡仄
ほうとうと志むめ白き天気かな　虎國

鶯

うゝひもの哀きさゝ〳〵山場かな　羅父
山ゝけふきく鶯ゝ哀き哉　虎國
鶯のおもハすも味むゝうる　野梅

柳

ちゝくと人のたちよる柳かな　宗居
風もなき柳の末のやすきかな　野梅
なびくべき所なくて柳かな　樗良
しなしなして日かさをさす柳かな　坡仄
老ぬるうしおしきまでの柳かな　南紀　薫故
漕ぎよせて小舟をたぐる柳かな　不呆

上巳

ちゝめくや麻の中なる白酒　何声

桃乃酒も李白ハ一斗份のごとし　樗良
人なるや焼野の末の桃乃花　虎國

蝶

ぬるこてゝねよ墨つけん椽の先　坡仄
菜の花に引りつゝ雨のこてゝかな　虎國
日乃さして簷ちさりる胡蝶哉　野梅
悩しの人を交なる風情哉　左竹
ちゝゝゝやもの思ふさに来るなれ　宗居

花揺

戸ごとにうれい吹こむ花の香ゆゑ　野梅
ゆられて人さはりゝや山さくら　虎國
むつゝや毎日花ふさをりゝ　春國
白たへや夜ごきゝの山さくら　不呆
芙蓉や子供負ゐくゝ花の山　羅父
さくゝ蕎ゝ山やもろ人の行る寺　坡仄
山うゝや素こゝの花に新日さん　不呆
よそりゝひてを玄の中四く山波ふ　茶州
就書に花こゝゝの行りゝる　坡仄

うれいかのふ笠ゐりゝの新日ゐる　仝
夕うれゝ花蕎ゐる祖乃行りゝふ　爺乙
さくゝ夏ふかのゝ出る有数ふ　秋草
ゐりハまさ夏ゝ吹ゐりさくゝふ　樗良
ちる笠やまきれてゐ夏人の新　仝

題しらず

出りゝや寺をうゝさのゝ陰　百雄
山寺や逢もまりゝ祢ん像　樗良

和歌の浦ゝ

春雨や松うの鶯もゝ和の尾　仝
瀑川かゝれそめたる桂　海風
野山まうて春のこゝろ小ノト　大路
そのまゝや茅ぶき古むしろ　坡仄
つゝし咲しゆけハ寺乃庭　野梅
雉きものをうゝ
ほうゝや蕨の巧者見せ申　蕨野
ひつゝし鳴や猫ホ海ヒテ椒乃先　虎國

隻の部

更衣

更衣宝さめちゝ気ひしゝ　野梅
きぬゝてハ京ぶ云ゝ　不呆
更衣やゝすハゝろく警ぶ　樗良
こゝろもゝ人儒くいてゝのんきんゝ　弟國
更衣詩ゝとゝろもおき自ゝ　宗居

郭公

ほとゝぎす山の尾濤を峰乃ゝ　虎國
附多乃陸子にうつゝ有歌ゝ　不呆
罵魂昼のゝゝ雪をうゝゝゝる　樗良
わとゝきを吹もとゝゝ山おろし　孤芳
待君の化ゝや歌乃ほとゝきゝ　宗居
ゑまゝと切ゝゝき山もとの子規　坡仄
きゝ慎や夢かきり峰わとゝきゝ　豹林
みのてゝゝて
山てゝや門をあゝゝもく時多　坡仄

多ゝ一夢有のわとり此子規　野梅
湖やゑうきをゝほとゝきゝ　蘿父

麥

むきうりてゝや植付ゝ唐きひふ　不呆
粉ひゝてむきうり者のをん麦　坡仄
麦うりやゑ風呂も附ゝ儀同士　宗居

祭端午

ゝゝ御のゝゝにかゝひの糸ふ　樗良

[illegible]

何やめひしゝや子供あつまさぬの場　序國

五月雨

一日も降〳〵八日てさつきゐ　蘿父

毎〻事〻一日さもれぬ五月雨　不呆

五月雨の京やあるりの序雲ゐく　虎國

喪中

中陰やまんちゝ雑るさつきゐ　坡仄

あめそとにあ鶉なくゐり五月雨　野梅

さみ〳〵れの時ゐ大ユつりひりゐ　江草

鶉川

おまゐ小死ちて弼鶉の袁ゐ　坡仄

月代や鶉のもゝらき乃ふりのもゐ　蘿父

納涼

ゐ涼〳〵刃中ゐ奥の服　坡仄

きゝの半ハ〳〵ゐ涼しゐの淀　宗居

月時〳〵旅人も出ゐりゆ生〳〵　瓦合

青の月や壁中はれ沈乃月涼し　虎國

何〳〵涼しゆふ雨の相ふ面の書　野梅

きゝしさよ岩月をりゝ乃鳥　仝

川きゝ月にむふていはる人　加賀　竜呂

紀納涼二句

石はゝてゑをゝけて川きゝ夏　洛　不獣

きゝしさやゝゝさをゝる日も水の上　蝶夢

歌〳〵らん

一里八戸さして柿の花さひし　虎國

木芽張ゝ

うけきゝや郭月のすゝ侍の山さゝ　馬勃

おききゝむ白きゝ　越井波　右菊

儀別

故のにに恪ぬゝゝさのゝとゝしゝる　商紀　羅外

秋の部

立秋

さゝゝゝゝ高ゝきゝひゝゝゝゝ秋　野梅

森〳〵ゝゝぬや故を追ゝ侍ゝゝさの秋　虎國

出てゝ見るや浦より門のそ船乃牀　南紀　宇外
ゝさの秋旅ゝ立寄きものひりを　坡仄

七夕

ひよ萩とそめてゝとき星の光りる　樗良
ほし糸歩ふゝひゝる女こう郎　弗國
羅ふゝやぬゝほしまり　挑蹊
織ひめにうすきぬもゝてゝみよりり　宗居
七夕や篭おゝゝ萩きゝけぬ　坡仄
萩ハうきや眠なゝにかゝ寄　野梅

ほゝひやうて詩とゝき歩の雲　不呆

盂蘭盆

線鬼棚や萩ハきゝ家のやとりる　宗居
ゝしこゝ魂ゝなゝ由ゝ乳ふ　不呆
ゝ中糸萩ゝ凡乃ゝひりを　野梅
ゝ陰やゝいゝゝもゝゝ高ゝゝ　宗居
ゝゝゝゝ兄ゝをゝかたゝ寄り　坡仄
魂ゝゝ茄子にゝゝ毋乃新　樗良
ゝ伊ゝゝ行ハなゝゝゝ蔕糸ふ　麓父

ゆふ芳や門の施餓鬼たる　庫國

秋乃風

さゝ〻さやぬらるゝ小ハの秋乃風　野梅

さゝ波や湖水に立つる秋乃うゝ勢　坡仄

秋風ゝ〻やまハ行くともも

悲旅愁

旅かゝ〻あさ人咎くれ秋乃風　仝

柳ゆも水にもまれ行きの風　樗良

このゝ〻やあめの降かも秋のゝ雲　不呆

月

行〻〻吹美乃中ゝゝ〻の月　樗良

名月や神の高ゝひゝさし　宗居

ゝ〻きゝゝや秋ハなゝるゝ〻の月　庫國

雲ゝ雲を文名月のゝれ出る　仝

ゆの雲ハいつくゝゆくゝ〻の月　野梅

湖水の月掃さゝれハ古人後遊を　坡仄

タ〻れよ面ゝうゝあれ月見ゝ　秋草

月待や嶺ゝ〻又人ゝ来る　不呆

名月や芦刈れきのよとゝあも　蘭故

二見浦にて

名月や富士かきしのかゝるうも　排也

雲乃色の義理に引ぬふの月　虎國

淋しくと月きゝの初る暁ゆ　茶州

名月やふかきけ行あり　樗良

戸をさして寝てもや　うれぬ月哉　野梅

ゆゝしうしやにうゝふゝの月　羅父

うきゝゝやゝ雲のゝゝゝの月　坡仄

秋の書

秋の情こゝ海よりる雲ふ　不呉

無穀寺

うれ秋の鬼に追りゝゝ夕ゝ郎　坡仄

秋のゝ仏人をふふ動る戸にうる　仝

月乃うきのたゝしもやゝて秋の雲　野梅

中くにきゝてもきゝ秋のゝ　樗良

雲雀乃雲にゆりゝ山やゆきの雪　宗居

露

野ゝ露やきのふ迄の風ぞ吹く　房國

世の常やあふちの花の散る事　坡仄

苔の戸や風の上なる月の影　宗居

ゝゝゝや松の葉中の雨雫　羅父

それ人に交るものハ冥を祈ん

こゝろあるとさ花とそうるゝしも

おもひけるとさのほるゝを雲ちそ

きくゝゝ牛花月を交とちんかいゝ

かもの仕ゆのいゝゝうも去のこさんしら

それハ世ふる人うてたこたいやしき

花の月乃うりを見ものすゝ所ゝ求め

作是ハうき世のさゝめのゝゝをきうけ

却乃ゝゝ此ゝりうそにおかあんて

つしおき人をもうゝしゝうこゝろのと

のうちゝゝれていうるおゝひゝむまほく

きぬゝん市ゝけゝをたほ和この乃

志ゝふおきゝりてかゝるをを陌上れきゝん

おハ志ゝと花ゝ記のまゝ却ゝくゝ世の

小ゝきうちゝうきゝゝこゝゝをゝ

きゝちきゝう作ゝ

茅の戸をいてゝきえゝゝや乃の家　雲衲　既白

虫

むしのこゑ〳〵きく已々ものをゝしまる　坡仄
うしかゆ　いとゝ　ゑをあきつ〳〵も　帛國
老乃身の何ぶんかしとやきりぎりす　既白
野〳〵むしや　ゆふ〳〵のほたる　宗九
ゆふ風や　草の根うちもぐむしのこゑ　野梭
ほたるゝやいつれをそこと虫乃こゑ　不呆

戸をあけば片山里のきりぎゝす　蘿父
門ぜゝきもあるじ雪らるゝさむしさや　帛西
いりこゝろ　ゝて砧を雪敷うる　茶別

萩

笑ふる義郎や雲のうぼうん　帛國
ちる中やひろ入てひろん萩のもと　蘿父
されゝやゝ山ゝけてもきの花　坡仄

きりぎりすを負ひくるひとの
屋うめのうらうれてつくす井の
蔦屋小雲より高くもりぬ
ひうひうや風ふきみちてすゝ

宗居
虎國
不呆
秋草

鹿

とのゝのゝとうちのゝ森乃鳴
ゝ山や森のうれしく秋きし
芙乃ゝとこゝもの立ちの
ゝゝうちにゝゝのうちや音乃芙

樗良
野梅
坡仙
豹軒

芙のゝほうゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
樗ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

茶ゝ
宗ゝ
不呆
岑望

菊

ゝゝ菊や幾芙にゝゝゝゝゝ
菊の菊ゝゝゝ乃ゝゝゝ
芙乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ
生垣や ゝゝゝゝ菊の花

蘿父
弗國
宗居
野梅

西行谷ゝゝ

雨さやさうさくゝゝて菊乃ちる　既白
夕風や菊りのまゝに吹ちらす　樗良

紅葉

川あをを横ふかぶるもみぢ　弟國
川ゝあをやあをを行やもそ下ゝ紅葉　宗居
山里や井にゝゝれて落もみち　仝
谷川や紅葉のひまの乃ぞ　坡仁
折ゝやさを乃もゝちの吹ちらす　蘿人

我下

色もゝゝゝ紅葉　坡下
山ちゝゝ門小田ゝゝもゝちゝ　野秋

暮秋

血小ぬゝこゝゝ乃系やゝれ乃秋　既白

幻住菴乃古跡

苔も赤も秋ゝゝ京乃夏ゝりゝ　壓樹
白く秋や風の吹ゝゝ秋乃雲　宗居
うき雲や秋白ゝ山乃ゝつゝ日　坡仁
朝日のあゝつゝを秋のなゝりゝ　南紀　釼馬

新しらん

稲うりや女八丈しめしをこそ　宗居

ひろやかに果なき路辺の女郎花　坡仄

山家に旅寝して

田乃面のさしく蛍のまぎれ　野梅

旅ねてうらく人うち侍る

秋道の旅よりたびくれり　坡仄

路分せし渓水野辺小ぢく笛吹　青野

伏柴辺やうらぶきそ八いとほそき　房田

一月　田山

撫子や家を人乃ぞそうや家時雨　全

冬乃部

時雨

むらくと房寺ぐるや初しぐれ　野梅

路すゝやそのをひをうら時雨　羅父

月乃入て寺おしくれぬ　房國

青海や星にうひうひし道　宗居

仰ぐ寺くぬれて時雨をちくるや　全

陸初しくふるさと空の時雨　摂良
ひとこゑ星に落しつくるの日　子風
時雨や人をひかりをタ〜くれ　坡仄

風

あらしの乃タくれ星のゆくえ　帛國
風やゆゑやむかしの秋乃雅　不呆
栗津乃松ハしらるる上の吟
こうしやゆゑも空ゆゑ　摂良

紙却

老りくと身をや思ひてたきき　羅父
暁乃志ひ〜きをしたきき　坡仄
風のおき歌と第れハ弾〜き　帛國
見井をおれ〜あるたきき　摂良

雲

千や濃も立もとも中さめ人　坡仄
あのしらや候くつする屋の雲　不呆

花を問ふ人もおき吉乃山ゝ　野梅
ちらすやとゝ戸ゆけてゝれハ吉の俤　弟國

留別

吉にとりふ京ゝ法りそけり　樗良
うちかゝと世をくゝてゝ吉乃ふ　宗居
跡も山もくれて你吉乃明りゝれ　野梅
初吉乃江ふちりゝゝ吉の影ふ　尾合
吉里や你吉めすに立ゝつり　坡仄
ほりゝて花つゝ松乃吉をゝ　不采

要津の歩歩生を歩ゝ

ゆゝき波風古歸乃吉を中歩ふ　既白
夕ゝれふ吉舟引をゝ戸口う弗　茶州
山越やゝのゝいてゝ仏ぬ風乃吉　蘿父
俳ほゝる吉乃野ゝゝの夕ゝふ　弟國

千ノ冬

ゆきおゝきやゝふゝ仏ゝゝつゝゝの上　野梅
遠ゆきや岩乃間より飛ふゝ　弟國

和歌乃浦ゝゝ

布川や影をつゝゝゝ仏ゝゝふゝ　坡仄

松風やうき世のつうさハちるふる　杜菱

[illegible]

落葉をたて茶を炉く窓の時雨　五松
土山乃飴ふ吹ちるあ乃葉ふる　坡仄
山畠や菓に無さして寒ひ　宗居
菓子壺乃ともし火落き十夜　野梅

歳暮

しの曽掃除のおもし木終　不獣

五眠迄ハ世乃中や茶ニ　樗良
世乃中や茶ニ　虎國
ニしの曽茶ハ春ふる世乃ふき　蘿父
春のふれ板そふ茶をおかふ　野梅
ふ人ニ人乃唱もふしの曽　宗居

我菴集下巻終

我下段

石をあらき

文粹乃月明らかなりし秋八月九夜峡桂山に
宴れハ境蓋山を冠の雲けのむふりたてり
筑摩川もかやうよ禁城をくり雲井ハもしを
名のみしく水上ハ月をやとす秀因毎乃夕べ
ものをひとへ山の松風うちくあつり室うゝ桂の
比さしく乃川近く流る稲荷山八もとと
川中岩ハもく雲ハ岩もち居り尺をうる吹風
樹梢を芳名くかゝりしく思ふ月にうこきて

あり〳〵なり粥をもり玉ハ炊く志ハ〳〵石上
にさゝろをもまん

峡樹中 作りうれしく

新涼秋月　　樗良

の傳

蛾抔や位なれくしを月ぬ友　宗居

石ぬあくしの乃此菫の秋　樗良

鳥吟う本さくしの孫ぬやうくて　居

雑持奴やりをこの紫きり　良

襟きハエあう孫さんの日を運う紫　居

函乃ちれ乃ぬ乃ぬ苗ちれ　良

祐如の欲うちしをうさ秋　居

晋乃孫讓とちり白ふらん　良

梅よ寿く人をこうえく西乃破　居

もちしれ蛸うり夕ヶ月乃四ら　良

あちうり次ナのゆうを孫より　号

あさうほの所とるさと恨ぬ　良

指さしあとハ何をの蛙ひん　居

夕方ぬ祈ぬ傾城乃神　良

経波津乃梅を古本に紫て　居

名をことしも紫ううぬ　良

いとゆぬいとちうぬも眼を痛く　居

西をなくさえうぬあうち西　良

豆蛙ぬ指うまう乃月二　居

夏蟹ゑ松の岩ゑ　こうり　居
盗人を約束持ちく　蟹ゑ　良
山路乃さ川ゑ一表　さひ　居
ゑ蟹ゑのさ　うて　良
遷宮うくたき伊勢の宮子良子　居
至月乃頃ハ都うた　たゑしひく　良
出ハ豆腐の糟を　冷ひり　居
なくくも亡者ゑ　ゑん　ゑに　良
おうきカ　ゑ　ゑ　居
杜鵑ゑとのうう　ゑ　良

今日庵うほくき　待　居
香炉峯ゑ　ゑ　ゑ　良
鍔ゑひうう乃　ゑ　ゑ　影ん　居
ゑう耳のきこゑゑ人を　ゑ　良
数乃筏のくく　ゑ　山川　居
水上ハ　ゑ　ゑ　良
尚　ゑ　ゑ　ゑ　居

良夜

酒ゑあゑひいろにゑ　ゑ　ゑ

越後高田

まぶしきまで美しく樣宜は師となる

風雅の宗匠の義なり

さゝ蟹の匂ふ心ちする月哉　畝波

秋よ友とあの人ハ今とそ日の月　湖秋

名月や深さうひハあるとの乃　色　羽花

芋婦の月星さゝ〳〵ゝ天の原　鵜三

ちゝ袋を出る新きよとの月　宴池

さゝの月かゝゝけハゝやゝ乃きれ風　燕々

名月や白ぬ涉むく生の人　魯尚

名月や夢ゝ紅人ゝゝハ葬ん　素琴

芋の月雲ゝ神ん人も有ぬ　由司

月と言狂人や樓うるの夢　畝司

ゝゝ乃月珊瑚をゝるゝゝ心　竹茂

名月や新地やゝゝ美れ寒　岐東

湖月やちもゝゝゝゝ風の新　素菊

山里や秋きく鳥もを婦の月　二竹

蛙も寒ゝゝゝ月を搗ゝゝ　松泉

新庵や月ゝ新北ゝ竹　林　冲和

あくゝれゝ露ゝ蕎ゝ月　湖仙

明さゝや月ゝゝゝ交ハおゝゝ　鬼二

学ちゝく配所きさやかの月　左仰
涼ハ訪き山ゝ志りるとしの月　巻亀
幸の月おろゝかに見しハ巻多　甚化

善光寺にて

善光寺の月よりあろ人乃かゝるゝ　樗良
我志佛や律乃寿きも善光寺　宗居

秋興　越中井波

鶏きゝやゝ多巻かさ乃ゝしゝ　陸史
旅の影ゝ面乃屋ゝ多暴風うゝ　五川

鶏を実ほゝ合ゝ乃きうれ　半麿
塚乃ゝ瓦やくゝ人と法ゝ　胃波
ゝゝゝ岩間の菊乃旬ひゝる　子可
山寺やゝ多巻の中ゝ夕きつゝ　木吾
吹巻ゝ萩乃中高ゝ堅菊ゝ　文弄
町端や巻ハ赤ゝ月のきゝ　左丈
廣き野やゝ乃ゝきゝの秋乃巻　温甫
高に妙ゝ菊やいやまゝ　太し
ゝ巻き山法ゝ橋のもみち　萩由

奇仙　あさの日岩黒乃里をく

かなしさの秋とうりての涙あふ　陸史

月てれ面白うりぬ人もれし　萩由

むらきる秋寒れ寄小住俺く　太し

こほれし菜畑波えぬ出岩　樗良

節遠に枯をたうを育うり　霄波

海乃朝日れ裸身よさし　史

鮮露のみち苔れ潮いさみ立　由

高麗乃軍の利あくたえう　し

かく後の袖ま疑波浪の音こ　良

雪乃夜の想をあれ寄りもも　波

月新うり思うゆをあを叶うあく　史

秋風いとく賛れううれか　由

世うりや門ま小寒を岩もの愛　し

凸凹　下りあ　銀言乃下　良

朝夕にあとけ波ハ眼のうく　波

海棠れ色　しほれ銀皿　史

玉乃浦うり浜棠の朶ちく　由

禪のとけさ寺は師とを　乙

毒ひ〳〵ま敷を〳〵天高多ひきり　良

侍し顔を奉曲うしろ淋しく　波
憂き迯さまして築地の畧もなし　史
涼乃浴衣をきぬハまくさゆく　由
これ多井ふ雨かる夕日の紅残里　乚
崩迯し菴り味噌なきく跡ス　良
狩人乃矢を肩先あうけとめる　波
卯月廿日此頃の暑さし　史
掛乞もを濱名乃橋のかとききを　由
烏帽子此か帯の形よ浮くり　乚
竹取の翁名月を読ぬ法し　良

出抱本槿をもちく酒飲　波
餅中に弥売つぎて踏りかけ　史
川乃渕ふ森ね埋渕のあるる　由
咲や所しく火を禁じく　乚
立ちさしうかし人乃顔さむ　良
む折く女中も道をききまる　波
条太鼓のちひ寄むなり　筆

しくの声きこぬも雪も蝶の羽そ　加賀小松　野冬
水の月ま大きくかきなされや家の竹　一斧

[illegible]や月のこゝろ[illegible]の[illegible]　青坊

十六夜や碓の人あさ乃風　和答

せきさうの[illegible]こゝろ[illegible]　百史

[illegible]や[illegible]をぬ[illegible]むさ[illegible]　奥傘

[illegible]にち[illegible]　中々

名月や糸かゝ[illegible]松乃塊　北鳥

白妙の袁[illegible]里[illegible]　波泉

曉や[illegible]の[illegible]　合浦

[illegible]　汀画

[illegible]と菊[illegible]　化水

月[illegible]　趙平

中[illegible]星[illegible]　只人

[illegible]や芒にたと[illegible]八月[illegible]　松井

沢[illegible]や水乃う[illegible]なれ[illegible]の萩　同松仕　去水

夕[illegible]や孤[illegible]又[illegible]あきの[illegible]　僧　龍石

[illegible]濱の漁村[illegible]

[illegible]き[illegible]月[illegible]煙[illegible]両乃り情ちき　松井

月[illegible]いつ[illegible]　竹越の峯　趙平

花房妖怪とうり　撰りけく　宗居

酒乃ゆきし　弦を飲みぬり　凡水

賦をしらむ　めの天窓を　書坊

滝うり　起き　風乃あ　只人

鷹の羽　乃　や　ん　合浦

ちれ　かけぬ　ぬ　井

長櫓　人を　平

死し　真似　居

芳　に　水

咲　梅　坊

寄　花を　人

三　年の　浦

義　山の　井

雲　の　平

御　風呂　居

う　の　水

留　目の　坊

大　一　人

寄　寄　浦

伊　風　井

ちゝ宿乃略ハ於ちとまりいく
ちゝ祿亘辻風なる夏由く　樗良　平
何よりも髪の当うの紀を乃ゝなれ　水
斬を情ゝ意眼小涙しゝく　坊
古のおのむつをは小指乃先も寸よ　人
名こを乃翼に通ふ屠う称　浦
嵐吹あゝしの月は月乃てり　平
月ゝあゝしゝ乃嵐吹く亀　井
おゝゝしやを青壁を意祇ゝ矣　良
旅の舎ゝ乃雛かゝゝ為亀よ　水

新の桃花をいおゝけと咲ゝけく　坊
陽舎小出乃恩学さゝり　人
焼飯乃連歌を書ゝ無ゝせん　浦
清ゝおゝゝき帝衣は袖　執筆

京きゝの匂ゝ名のゝおゝく
なゝゝ
一巻とハなゝりきゝ　樗良

發句

ゝの出ゝ比吟ゝ色ゝく吟意ゝ　加賀金沢　闌更

玉川しや木槿ある夕かくろゝ　呉夕

山本や見はくもろくしもむ　暁漁

里までいりし月に数そふ小萩露　非口

竹垣を離のちゃあきの為　氷壺

露なく八かく八分かれし株の草　秋蘂

秋られや山寄居水のおと　女 華夕

さひしさは苅田れ見てう落ル雁　信 阿了

暮てゆれ不河鹿啼なり芦の川　松吏

武蔵野や月に照ゆく烏れ哉　黄花

朝日や露毫かく哉峯の鹿　摩峰

家持朝臣の塚にて

あき[illegible]風吹く雲井のしをり　白菊

途中吟

茶店枝名のこれ色は咲不こり　芸当

一の仙

鷹の巣のかさなり落て山辺かれ　樗良

海あるものく月西すおう哉　楚丁

軍中の旁にまのひ乃船をまちて　馬来

鼻吹をとちて家成ありまく　宗居

篭姐ヶ門に出し〳〵大篭や　青銭

牡丹乃價　壹斗　やり　良
さくらさくら法會なしくらゐ弥生垂　丁
かぎりなき乃緑ゝとくみふ　来
住吉の小松引よ里繁りしく　居
琉球乃さよう　胡弓　ひし　銭
箕ぬ〻ゝ沢乱　獅子と三字書　良
佐理をまうし　薮乃神垣　丁
ようゝひし　法師さひ伐ゝ　来
唄ゝく喜かさん面乃塔　居
月待のさかし　弥生八重の明ゝく　銭

座敷乃表ゝ　菊を　白さ　寿　良
みよゝ帝ゝ美咲　ぬぬ　さくちせを　丁
ゝゝ乃滝の　喜もゝ　ゝく　来
見捕ゝ　偽人を　ぬせん　とゝ　居
相浦の　香ゝ　炬　ゝ　銭
卯乃花の　重咲　ゝ　岩の上　良
寂又の　ゝ　ゝ　丁
候　ゝ　ゝ　来
ゝゝ　ゝ　ゝ　居
暗き　ゝ　ゝ　銭

萩の枯葉うち竟乃なく　良
舟橋やうちうちの月の果う　丁
貧うたへ清く玉数を賣ん　来
市人を自の小路へうゑき入し　居
板明葉くしたる奈良坂乃寺　錢
竟うれの蓮葉拾ひ負ひしく　良
足乃痛う湯淡味なく　丁
ありうへの重藤の弓作りけ　来
尾形屋うり使かさ物あ　居
菱むむの苔乃詩の紙出さんや　錢

蘿うち　鹿乃　水呑を　見て　筆

小野虎とうる山の禁乃　貧家よやとうく

うきを旅うち志くものとくもまりを　雲祐　既白

蘇のうちんを色うんかゆよ寒志ろ　金沢　芦丘
湖うみよ味あ秋のなさ事ふ　大丞
脊戸にたうり世出憂ルふとも殘やん　野白
朽葉をや菱ルとうくんきくのを　李徳

移りゆく秋の日数や庵しられ　楚丁
牡丹より八芙蓉乃花の風車かな　馬来
萩八しらねまかりて迷ふ女郎花　女 三木
名月や一夜八晴ぬ鳥もなし　牧府
世にあすひ今日こそ菊まきめり　斬水
門ン錢を約るを夕まなる秋乃風　青銭
朝顔にあのおもひしう明をまえね　伊勢山田 瓜坡
此所迄とり送りし侍彼月の秋乃風　蘿文
揺へまゆ風情を乱す月のくも　花紅

追加

可便

本色腹さし出て秋乃月　馬未
門トをさまむしき萩の杭　梓良
野分吹あとの萩ゝ色ふに滝あいて　楚丁
貴之ゃ奇れ姿なりしらん　芦丘
しれをえし吉備のおとくも及ぶまゝ　良
かくしもれあふ乃茄子強ひてゝ　未

かくちり綴りて無事に席ごとの
始終よ落葉しを文字に含まんかと
おもしくて

一日ゝ錢ゝ百錢ゝゝ者八　青錢

聲の無ゝ蓋ゝ蓋ゝ蓋ゝ

若ゝゝむゝゝを蒙たゝゝて　丁

なゝもの有ゝ狐ゝゝゝゝ如　来

かんゝゝと形紙張紙敷ゝゝゝ　錢

ゝゝ切ゝゝも意乃恨ゝ　丘

蔓花に珠名の切情ゝゝぬ思ハ　来

さゝゝきゝゝゝゝゝ風のゝ　丁

雞柔ゝ炎なゝ乃紙むゝ　丘

那ゝゝゝれハ卿考　紅藍　錢

歩ゝ宮ゝゝ蓋ゝてゝゝゝゝ宮ゝ日や　丘

思ゝ、ゝゝとあやしまれゝ　錢

ゝゝゝ、宝笛盗人乃叫ふ　来

孟葉の清賀ゝゝゝゝ蔓ゝゝ　丘

廿日餘り四日の月ゝあさの面　錢

病屋蔓ゝゝ詰ゝ死ゝゝ　来

比良堅田芭蕉の墓やゝけ思ゝ　丁

ゝゝゝ乃ゝゝゝ新もゝゝゝ　錢

六月九風ゝゝゝゝ幽ゝゝ　丘

麦藻墨ゝ裸身ゝゝゝ　丁

庭先を女子乃膝へ走やりて　錢丘

石橋も新敷児の敷き物　来

行く清き雲ゆく長廊下　錢

初午の歌乃幾をとりて　丘

祷をくおよそぬ神を祈らん　来

かくなる指くく譲うやみ　丁

明敷うり整古の幾を合ひ吉

うらなひ老八明けと四月朔日　丘

衛に一咲文乃原山弥　綾

素人大工の書建しうる敷　丁

明和辛卯八秋

石城あれ志敏

石終

月乃夜

[illegible]此秋八洛[illegible]新んとおもひ[illegible]
町の三條新[illegible]所にあやし[illegible]此事を[illegible]
[illegible]流うち[illegible]
新[illegible]住[illegible]つる夜月此朗[illegible]
に入来る人[illegible]
誹諧連歌とな[illegible]

樗良

[illegible]て月乃訪きのおき夜小　蘭臺
歴の[illegible]風おこるかを　樗良
秋乃詩を夢麦の袋に新[illegible]　蓋村
さ[illegible]　集馬
[illegible]て[illegible]掛り私　月居
[illegible]此あう[illegible]　路巧
瓶の[illegible]　呑湏
[illegible]　月溪
郭公心[illegible]折もあり　定雅

山路を行ふ乃時出て臺
嵯峨に佛 茂背を負ふ月 美角
そそ〻ぎむ一神の色 村
くるかりくかくれて歌く遊ぶ所 良
うきよつうるる芋の弦ひゝ 角

末界

月々有あるに世翁毎出よ 蕉村
名月一朱盃の思神 孤てあん 几董
月清〻二人ぬけ出の習 集る

かゝり〻や彩〻かゝれハ忘乃月 月居
弓元の石書きふる月歌う船 月溪

名月や蕉乃やゝ大さん 呑溟
白濱ふ玉藻ひろふむ月を青 兎舟
名月や文てもく青ゝ月 魯人

汐川や月ふ棹さ影柴小 私路巧
雲さゝ〻人の呼て月乃 蛙水
名一むれ月のうら景 陸咸

蘇の上月うこゝろあるし　かよ
脊戸にかゝるうちくに月見るゝ　湖月
嗜粥ゝ雲にうゝみや青丸月　斧克
置家ゝ情を殘る月の影　公子子
うゝ色しるきて上月淀歩哉　摶良

秋の句

きゝより萩より弱し秋の風　美角
ゆゝ色ゝ蕣さるぬ面乃中　南雅
ちゝ秋や橋ゝゝ魚のゆゝく　鸚子

小形ゝく瓜ゝ形乃ゝ踊ゝ　兎角
粉ゝ一後ゝ吹く秋乃風　定雅
水ゝゝ穂蓼に苔ゝ秋の色　我則
秋の面かゝゝ見ゝ二日ゝ　李音
無笛ゝ書ゝゝ玄化
行青や苞乃蚓ゝ白砧
ゝ響や蛍ゝを鳴く九湖
破ゝ笠ゝいさゝ竹裡
花ゝ紅多形ハ秋上形ゝ自笑
反橋乃下に旁吹くあゝ　秦夫

文乃もとに寄せる　秋の初白

庭乃毛の班に成れる夜明乃霜　陸史

咲やうつるや白菊のうへを吹る月　左文

ちらくと散初つる秋の風　文乖

月の雲うゑ寒きうをれの音哀　木吾

七夕の雲々きて宮れちきりの糸　太し

吹乃ぬ笛はれ柳のあき乃風　伯岸

野を吹わたる秋の風　越鳥

よるく雲流よりおこる秋の風　泗筌

侍星、月の秋を吹あきの風　羽毛

音伝り折〳〵ふゆを秋乃風　馬有

此秋を野ら月に家のうれ小　臣渕

秋心ゆゑ置ん所きゝあれ　一斧

白妙の家乃里家ゆゑつ石　波泉

秋家乃所ゆゑ小水を吹かゝ　春路

世の中や山に鈴迄八麻乃声　百史

名月の初しあ中玉極ゆゑ　中二

嬢しさ一志り吹る月乃家　青雅

秋風の寒きゆ成茶れをゆ小　越蓋

夕べや風より奥れし三日の月　和答
寄出の身乃世界の迷ふ迷宗　奥春

蔦をゆてうつくしき曲のうるおひ　真池
稲妻あるは猶寸乃ゆれし　燕々
あらとうとき皆志つゝ寄の踊りの如　畝司
雲猶く半に消えし三日の月　竹茂
天の川乃中吹るゆゝしき　岐東
強かりしの祭り終りて風乃月　古菱
淋しいや遠山里北三日の月　畝波

而乃後しゝ化僧乃茶乃糸　百合
山沢へ水乃流しゝ乾女郎花　居来
り秋や月さえなくて松蟬　子渕
雪乃塚いつの暁よりかなしゝ　琴水
暁やはの果より苏の夢　大器

仲秋湖南に於ひて

石山やのとうと寂の海の月　暁臺

余無四季混雜

稚子やゝ〳〵成て寄る冬の月　素由

詩人小石〻遠〻より来る和　五九

五月雨に塩屋汁の風味哉　伴山

時雨〻新米やくる牡の家乃玉　友花

寒〻人り蕎かゝる苔の吹言哉　杏父

一家の鬼ゆゑ　略　乃春　市芳

新風小来こゝろやゝ形さりなる　州巴

墓地さやや起〻まこゝる月涼し　如之

茶乃二の余り白さ〻り方に入ぬ　竹也

切遠一人もさびし　北秋の人れ　兎丈

東風吹〻〻柳の所〻〻をとゝる　柳志

子〻〻おり経よ〻〻西〻や言仏　丁々

涼風〻さゝ〻月の出る〻　文綱

去の風も刀の刃〻り白ふ〻郭　涼秀

風やあら柳の光〻乃石手〻〻〻　袴仙

青柳の〻〻〻〻〻〻〻る嵐〻　寒秀

涼〻さやゝ〻〻〻〻〻〻青の松乃月　蒙夫

花の〻〻〻〻さても心の〻〻〻〻〻　坡仄

野梅
花紅
虎國
龍石
江州
素湖
挂舟
乙序
竹所
茶州

聞詩
俳布
吐故
茂松
洒高
秋江
只浩
南河
滄洲
真呂

梅の香や嵐の中の乃ちの風　楚竹
京師あり井に並べる乃梅　遠渙
門異しエにかくちの瓜の皮　弘巨
山吹や散そとも形き其のの姿　望
其の月　我うの家の家　魚川
巣にさえかのちれを面の男麻子　百亀
起多の踏殺しゆくやきい　故吾
風うのてやうても起を女郎花　秋水
石積し形小素ろうをさう郎　斗南
芝庵の油引しうぬ塔うの　蘿父

梅うの家の家原小柳うの家　宗居

明月や松に巣うん故もきうう　葵子
巣中小多峠月形壮分う郎　亀友
松乃時月之寸の原走う事　右跡
家吹く巣うく埋う降川子　志慶
月と形うて小子蔵に高を足う蔵　霞東
長拓うう秋も文明面のくれ　鳴鳳
汐風や一羽乃雁のうれ　魯谷
干孫やきくに高の日北ひう　袖女

ものれて秋はにしらやか小萩哉　稀声
夢うしろく松う青を寄る男郎　守一
菊屋をひとつはくあさの書　白堂
星今や月を仏うもぬるも　其角
芙蓉や月を仏うもぬるも　士巧
秋風や柳うみられ松を寄　士喬
萩生くふしひ家にぬるる　士川
うき芝やうも訓を麻乃寄　佳則
菱ゆるくうはくせり地蔵　大魯

月ノ九

芭蕉ゆるう家大きくおりくく　蓼之
萩乃中芝ふる蜘乃日和哉　正名

十六夜の月を思ふ乃遠ると
えりくせを庵に入

十六夜乃月乃やうやけ庵哉　奥春

ワりうちる家の写
盗とりんと寸歓ま

茶碗くく酒を飲む者乃つき　摶良
生望の次気う大工風郭引く　越益
往乃ー女房をまかをうう　定雅

[illegible]雨のくらきに　美角
[illegible]のおくれ[illegible]その[illegible]　春
田[illegible]やくうち[illegible]き　良
連[illegible]ひとと[illegible]り　蓋
う[illegible]玉の[illegible]き[illegible]を[illegible]　雅
[illegible]れハ[illegible]　角
[illegible]今[illegible]配所の[illegible]　春
蛸[illegible]し子を三ツ乃年　良
入[illegible]軍[illegible]置き　蓋
月出[illegible]きり[illegible]小[illegible]冷　雅

二階[illegible]下り[illegible]橋の傍　角
[illegible]や[illegible]雷[illegible]　蓋
[illegible]花[illegible]心の[illegible]月　春
山吹の中に一夜やとり　良

[illegible]　青銭
[illegible]月[illegible]の[illegible]風　長河
[illegible]秋乃[illegible]　凡夫
[illegible]傳[illegible]秋の[illegible]　野乙
月ひとりや[illegible]庭[illegible]月　岩下

鶏鳥や麦をかくす苗のうへ　业鳥
葉のかげをみてさうれん　可緒

苔の音は情は通ふおさまり　春路
家としもにゆとハ志ゝ秋の美　さ紀
咲ほこる松ハやゝ女郎花　如今

鶏頭や散ぶるもちゝていきゝ　羅川
少〻栗のかゝ〻ー蔭りんあきの月　ア圭
猫蚤〻咎まゝ悔ー暁乃月　萬柳

袖ぶくゝ庵を出夜の友も恋ー
ちゝ宿のひとつおりゝ月のうへ　昌平
　　雲良

石山ゆゝ
石山の月や夜さゝ〻秋の哀　馬曹

小田をー庵遍ゝ赤も松さて
咲ゝ気の毋ゝ稲ゝ出て踊りゝ　車蛙
　　鳳五

ふきゝや静に附のうゝゆく　江涯
九月やひとゝきゝりて菊薫ゝ　斗酔

名月や空吹きつゝ静まる　直生

水乃月秋の意ふきまとゐ　北野

何けものや必法かゝる碓の　風涼

茄子引〳〵菊〳〵蒼の見ゆるか　布舟

月の夜集終　安永五年丙申仲秋

月ノ終

菊乃香集

秋ことにめてしるへきさかりて色
咲乃錦ふんわりと色ふかく露と嵐に
何ちりてはの中にて色ハ月よりも時雨とむかふ
しらぬ君がおしきちるをうつくしき姿
そこと露の月日をいつくしふにあらし姫
こそしの錦も共に菊月ちかまり
無の庵の如しき越路を皆も小野の
まり竹乃つしり戸乃窓のやうにこもり
影を照らしし光を透りあるは松の影

埼の露袖にあるくしとも日ふんもうくし紀
主頭の日をうつしせらんとけふりもちらぬ
菊乃山路よいさおちる作道ハ難き人の風
情のいとおもしくみえつらいありしと露哉
とも開よ席主必ひといさや出もうけの
付ぬ手の隅るさの席もあるれハ和かも
香織乃色つましたてんおらくはへ限れハそくらふ
故事をとくのかしくも菊花の跡ともさす
長月十六日の夜の雨情しけりてりまくん姫
し都ふ良く作をかしし侍へと人への言

[illegible]

坂井の菜摘小路を砂ゝ

菜乃香[illegible]

[illegible]

太蕉　畝波

[illegible]の一枝をおのゝ[illegible]

指ゝ口[illegible]の曲を風ふ

[illegible]

無尾　樗良

故蓋八幡に[illegible]

送り[illegible]人ゝ八幡比叡[illegible]

[illegible]

菊二

又百[illegible]に[illegible]道をいとゝ名[illegible]

の磯をゝる比を面影ゝ日八寺一刻を

[illegible]小波あゝ[illegible]堂をたゝ[illegible]

[illegible]日[illegible]道[illegible]

立[illegible]

[illegible]

[illegible]八幡[illegible]

[illegible]

青の[illegible]馬[illegible]

[illegible]味り[illegible]

[illegible]の[illegible]

杉の門玉敷妻う雄むら　畝波

何ゝゝゝ　自或皆妻うし　良

杜の鶯を役めの伴にてく　萎

力の翁をたうまうもむぬ　波

妻ゝゝゝ皆ゝゝはれ出ゝゝ孫ゝゝ

十七日清めはきの人にかりうゝ山の名色の

きあやふ清うち際をつゝ糸無川う

ゝり和童章に入ぬ人ゝ計者杉ゝ中にを

ゝ一曲を宇ゝ　女八き岩ゝてうゝ

月末来ゝゝゝの半女清う近きにゝやを

妻うちんにきうゝきる山ゝ山ゝの嬢ゝ

きと中人ゝ人ハ者ゝゝゝてゝ無ゝ作ゝ

西砂ゝゝ和妻ゝゝうゝゝゝ枝ゝ　畝波

ゝれより馬に歩妻ゝ畝波ハ妻ハ月也

樗言姫萎ハ孫ゝたゝゝ弱遠ゝを

家ゝ丁一羽下ゝ長ゝ波歩ゝ乃をゝ山居

ゝゝを故萎乃牙作ゝゝあゝ之ゝ

をゝ妻ゝゝに龍り人ゝ世ゝ伊をやゝ

ちゝや矣ゝ祢ゝ形ゝ是や高層ゝゝ多ゝの

深ゝ中ゝ中ゝ歳ゝゝちゝ

人遠し雁渡る街の秋　故菱

残り迷ふひとつの丁を観志るは　橋良

哥の跡より白萩まで三里あまりなり
まとひりほどく行路を違ふにかかれば
鱼の声流れず空に雲
穿き常磐の山色のむしの声　欧波

渺茫の刻乃比市振に差枯桜屋にやどる
十八日雨降りて後きのふ日暮てかや志ろきを
之鋪より事越え境子堺川を越り宮谷
にかゝり蓮来は文乃あたりに泊る一夜わたる

待ちわびしなくて寄せ来とまりしく浦る
泊の駅よりまをあひて寄せなく通り
おのしるしよ下りて黒部川を渉りむ
寄せ本の橋八あまりの嵩より渕より寄らずる
数十丈川の音流を見てみちるものを
眼をらし御しあ八公を喜ひゆ塩切
方に至り行く雨中の寄ら交へいとあはれ
く又いさ跡より志りて橋の上に行く
橋なるし　子葉哉埋む雨の雲　橋良
とみち静に川流るおこたる　欧波

面葉を通して夜を徹して月に桂の花の
ちらぬ影ふかく入るを見あるは月を待て
を待て来るを見て歩行て
南ふ笠掛も打よりかくしてそなへ
菜に蝶し　粽賣家の孫乃和　故菱
木乃葉漂ふ夕日に蓼を刈て岡山の里
に蓼田家ふ鮫を乗越て
切麦の鮫乃所にや大庵粉　樗良
　馬上吟
磯山やうしろ八ちくしのあ　畝波

祖ちく三日市より蓼山里ふ泊る此ふ八樗井の
宿ちくし　掛けつ
十九日晴天乃ちく能登山を眺望して
出地に入大寺を尋ねて
秋の淀風蝶しき松の間へふ　樗良
ちく八の花乃月乃夢ちく　大蓼
栗蕎ちく餐　掛寄の白ちん　畝波
玉木うち人家数建　川ゝ　蓼
見渡峠今ふてを望きく
花をかきし乃寄合めて　情助

末略

詩商亭に入て

立りやとみち照り付小主　樗良

菜の華かき春の蝶まく　詩雀

下り月船のうきをかへりみて　暁波

ひとよりも肩うちかけれ　棗　大魯

まつ秋られ来芦乃南比頒やりま　故菱

雨たれりて焼いさはよま　去蛍

あるしおき木の下に返て目のさは　百合

ものをりしれて　並戯洗りん　涛助

末略

東に入て居来左より路来る魚津より
洒釜羽毛来る若子て大魯亭に泊りける

居来亭

古き何某のさんひさしに
書に芦の穂乃折まじへ極まり
八束の能こそ化より付日寄載
まておもそりのハあるし
のそかは

まさ老て主をたしなむの蝶　樗良
菜に折りかへて折の芦乃穂　居来

葉八月うあるこのゆふぐれ　昭陵
松より上る男ふ　大忠
緑染の布衾を肩にかけ　故芙
海のくるくる鯛の歯をさる　情助

末署

廿二日大忠亭より出る人八井陸まで同り
ちんと沈小佐くさも名里を船にまく送
まり名残を惜しまる布勢川乃急雲北
山くさるに延井茶く出龍示義茶
焚茶故聚しめかくる

時うつるまて菌焼吟ひて無しく談ふ
乃かりをを陸さる寸法くもんり蕎
の姿情をみむ　むのくりかるれくりの
奥様の訳ちく　るる出泗釜出るよりまる
くれさちんとやめやうに実入久ふ
樗良きいつもの旅茶ゆうんかとをのう
ちくこの茶此あくしかるふ昭陵
故蓋ちくめくる今茶八泗釜亭にやる
主人のこるさ武むみ
ちんとのくしもの八

[illegible]

風流の罪ゝ奥はめくれの緑　樗良

さく桜の花ゝ叶ふ有　泗筌

新涼嗜をゆきゝ稲州ゝ　畝波

見井おかゝ宗うゝふるゝ　故菱

玉井へうやく立うゝ　越鳥

解をかゝ表新　宝乃ゝ　羽毛

赤暑

廿三日新ゝ而陣ゝ岩瀬ゝ乃ゝ鉄ゝや

免小杉の者豆腐ゝ方にやゝゝ寄ゝ

つゝ出ゝ白形

廿四日而いゝく始ゝ風あゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

晴ゝ鉄ゝ新ゝ小杉の駅をいつゝ立ゝ

くゝ而中の丁ゝ鉄ゝ

蔵ゝ果ゝ立ゝ　樗良

ゝ出ゝ出ゝ而の丁

ゝゝ出ゝ出ゝ秋の日乃

鉄ゝ而ゝ出ゝ新　たゝ立ゝ井波ゝ丈

幸に入陸史荻田大乙ゝ比ゝ

ゝ出ゝゝ宴ゝ杖笠を張ゝ

主人うつる世
世々栄をを
志のクセクさ

悔あらじ行くし紅葉をたく紫　助波
新ほさんおき君のさむきに　左丈
夕くれや新さしつる伸乃月　樗良
ふる雨にあらかき笹　白亀
格結の帰尾ふる時ほうと　故菱
摘乃いさ手拭を行方　大瓢

未暑

七月　くれ切秋の聖を詠く

孫売の架小孫主り　風の月　故菱
あさ明り秋の行あく山り　陸史
深松一既邑乃下より毛吹　樗良
湯ふる雨乃袖ふふ　大瓢
松ヘ蒙松の株歩我割ち　大乙
軍ふ一ふ新ほの花の高中　文弄
此一ふの美女の瓦躍ふ　木吾
五更の月乃う　狐
ほ雨ふ一ふ　萩由

市供禁は手洗川の名残なり　畝波
何回りなりとも立ていきまて　尤丈
人きらひの高小伏きりなり　温甫

末畧

廿六日風吹

きのふ立人より別れとくとく
略性故墓とまとまる山茶
左史亭に於ふ

名ゆえ連くに月小井波の秋涼　大巻
家のたりなり　稿　畝波

菊

必義を案ずるに杖り拾ひ　左丈
町乃名所の赤虫の岡　李村
拾ひ行ふ力たきの石一ツ　白亀
俤の由来をいふ　俤書ふ　松谷

末畧

廿七日暑て
苔寺に三子を訪ひ
ゆりひ入山の中山原や藤の奏　文乗
苔の原も亦故時おと　樗良
芋汁を月の明にさすらん　陸史

相末の杉葉うち吹蕭ら　畝波
枝穂ー　私の掃除を手伝ふ　故菱
蕭の戸口ら　稿を休めん　左丈

末畧

廿八日　長歩立人城塚くり老の野乃萩自
さらら　秋のかゝ旬ー　きぬうこり
晩の秋を涼ふ　畝波
何ら　ー　ー　ら　和ま山に乃　有　大蕭
言句を蕭達ら　本蕭　畧ら　故蕭
俳の白菜二俵　を　ー　左丈

言俳や師走の移ろうた　温甫
私ぬかるこ　清の夕ら　白亀

末畧

廿九日　長歩竜立の留立の
蕭智をたつ　ら
り　塚や有さえもなき萩末の石　吉園　玉馬
かこり　ぬこ　ら　ー　火乃　畝波
坂を越す　沿　橋　畧の　畝　悟史
出　立　ら　ら　ら　ら　故菱
蕭ら入ー　埃　坂　拾ら　大戸口　大蕭

菊うき仕舞ふ事乃夕べ　文蕉

未詳

十一月一日あらし迄

吹まる風の遠ちや初しぐれ　蘭臺

月氣をきゝ雲ゆ行れ今　吹波

石垣ふ捨てる間のうなぐく　陸史

立ちうふ〳〵井戸ふ　白亀

泊こしに菓自ふ有る舟身軟　故英

すれのうつるの時きう　左丈

未詳

二月雪天

初しぐれ出時の杖ゆらるゝ　陸史

路乃繕ゆ日暮ける　故英

碎きの武石加人つ迄　吹波

さゝ波迄ゆ町乃入に　左丈

必柳乃裏の中に吹ゝられ　文蕉

濡ゝ身の路のこりゝ　温甫

未詳

三月雨降　樽京塚場ゆ旅菜屋

是ゆ下しまりゝ樽を

神ながら古家ひさむく
月かくれ中上ゆく

ゆく〳〵や時雨をてらす榜の色　樗良
山色の青い神ぶり拂ふなん　陸史
ぬりひ入夕月に光り出る鹿遊く　畝波
登山の遠ゆく荒ぶる蓋　葉蓋
池乃矢の根を自然研ぎ　大乙
是を菱菱の絵ぶり冰青い　左丈

求異暑
四日俳諧榜樂徳菴

寄仙

笑ハ〳〵や初ゆかしい　新附句　陸史
松聖の雲に乱風ちらす　畝波
蓬萊山の禁はれ　樗良
山菱出〳〵蓋見尺也乃丸　白亀
立ぶり其れ旅入を和ぶる色　大乙
何ぞ雲と紫の月を名月　故菱
幽なる秋末のとり火秋末の月　温市
うとんの延年をうれ戸の内　文弄
雲〳〵ゆ〳〵ぶり蓋　左丈

令ちやうひし　波　史
赤くめされ稲穂のまゝ乃二柱　波
素盞嗚尊さむく　等哉ゝ　焚　良
五十月之年生乃年　壽く　乙
伏見の鄙人へ之ゝ　寄ル　亀
むらゝ　卑　多義　樫ゝ竹遠　菱
系の第弐ちやうけゝ　史
鄙ちうんの神書　點ゝ寸　紙の青　丑
ちりむらゝ　けゝ　寄　林　拔やる　良
益の中ん初し　意のうゝん　波

むらゝ　筋の　流の　志ゝ　亀
菖蒲や　葉の　雪ゝ　取乃　ゝ　人
神のさゝ　後乃　わゝ　寺　嗚　市
春りなる　小枝　拔ゝ　中や　良
小豆のり　を　蔓ゝ　畫ゝ　乙
鍋燒　実の　廣ゝ　ゝ　史
下百性乃　称ゝ　ひさ　如　波
系業伐　岩口の　出　嶋　菱
貴　紀　い　尾ゝ　紙青の　點　史
傳奥の　藤乃　多　紙を　乃　乙

[illegible]の[illegible]の[illegible]良
[illegible]小[illegible]れて史
家督の[illegible]菱
縁金の[illegible]の科波
[illegible]に利良
[illegible]の編[illegible]亀
松の[illegible]の[illegible]乙

五日[illegible]文[illegible]一里半[illegible]
[illegible]故[illegible]

今石動[illegible]夕日に[illegible]
[illegible]
日の[illegible]尾[illegible]菱 [illegible]波
六日[illegible]
[illegible]
[illegible]
日の[illegible]中[illegible]波
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]入
[illegible]
[illegible]入[illegible]
[illegible]菱

樗らんハ何とよりも事りくらもに金沢文庫所
木吾り旅者ゑやとる程ハ為くく事の勢り化ハ
文をし鼓家り暑きこ家ん　故菱
かりひハ日しし面のさかくく　樗良
下さいく軍生くくもの角鼓く　麦丁
家の鞆卿り角ゑる句り　畝波
古書くく松ゑ書く紀秋の旅　木吾
役るも古いぬ文に始り也　芝丁

菊別

かさゐハうくとゐくもし　古落もし
如くく旅伽をかり　ひあく
後の名かゑきゑきゑきとくて
くもにきて名ゐ故伽つく今や金楼
に為りくく神をヨクけりを
くくむくきやけけをかくさむ
くまやく

くゐの別迷ゐの泊くる家菊　樗良

かく菊別の白乃ゐるもあ
きやてに別をゐ作迷ハ旅中
の作迷くゑ句を居く起く起ゑ
ゐの何くゐ故ゐけく

名残惜しき二節ゝ蓑子葉　昄波
袖のしられハさらさらり降　故菱
移ろけ人洗濯ものをかけ並べ　、
川欠畑の桙哉芹あり
踏ならし紛る雲なき笛に秋の月　波
さきのちや紀伝法語の句まで　、
蘂をむ気の用意の家に寄る　菱
人かし倚ーし庵主舎ふ　、
方丈の槍の安語しく気の空り　波
泥の名ふくに落ちし螺鳴る　、

星らゝ入梅晴てく夕月夜二　菱
命をとしける女あり　、
意ふよる言葉吐して　波
ぬまうれとのく紛あるし　、
かさり蜑藁人形乃訊さむく　菱
月ゆあやしき蜀の様とり　、
送やり汝川浪ふ青の都らん　波
けりぬる枝の柳ちり行　、
水も遠ん家出姿に身おし　、
核路の曲乃段哉家り　菱

[illegible]の[illegible]の[illegible]簫[illegible]、
[illegible]小流[illegible]き月の秋をさつ　波
流[illegible]の第稿[illegible]きよく、
掃除の信れ人呵[illegible]なり　菱
穴吹き[illegible]大夏乃信の[illegible]石　波
融一足生獨[illegible]　菱
四五日の樹の響古乃手並尺よ　波
[illegible]を掃[illegible]乃たり[illegible]
新条れ[illegible]　[illegible]の[illegible]山　菱
多[illegible]人[illegible]り、

菊十八

岩倉[illegible]の[illegible]に傘かりて　菱
[illegible]岩倉[illegible]の吉を字
けし[illegible]紙のうり[illegible]月の色　波
信の[illegible]新大[illegible]　菱
[illegible]の編に[illegible]　波
[illegible]の[illegible]新人新の吉　菱
[illegible]なる[illegible]　妻池
[illegible]ほそく[illegible]小[illegible]三日新月　竹茂
[illegible]嘯く風[illegible]掌の[illegible]　歌司

玉川の中吹ちるかれかしは　岐東
眺よりてくゝ悲しくおきに秋の雁　燕々

文通四季句

雪やちる吉野已七字風情　伊勢宗居
梅ちるや菫ゝ流れ水の吉　野梅
山桜の花ちる中の雲雀　花紅
ちるくまんゝ蔦の葉の葉　坡灰
形くや微の玉簾乃吹たる　蕉文
ちるくに雪ちよつちの厂　茶州

ちるくに花ちりけり川邊哉　聞詩
鮎の音や宿五つ過ぬ　江ヵ
岩乃山霧くゝ匂ひ立くゝ　桂舟
ちりくゝの月くゝ匂ひ立くゝ　南河
匂ひくゝ成り山の時雨の音　楚竹
降雪の果匂ひくゝ日八蕾　真魯
月代や山根を白くくゝ　滄洲
聖ゝ山をちりくゝ　逸渙
其乃日や梅蕾ちるる藥　洒高
老人や梅を御ちるる　只浩

人志きしかしさく咲りぬ夏の雪　秋江

庵の梅たしなむ白き蕊哉　内宮　麻呂

紅梅に馬吳の花くらう小玄冥　元箸

紅紫や素焼の菜徳出免の花　菊我

石梅きかさりの花の咲り蕊　可至

さきをしらや今十六夜の月乃報　鼓石

さきとりしく出れを月のきぬぬしか　越中井波　蘭甚

紅かきの木樵夫の袖のきれうり　陸史

山人と連立胡のさうう南　荻由

さうう雪や芦垣さうう倚の宿　文雪

ほちくと宿柳つうう根元　白亀

雪蕊て移乃体ゝう岩の上　木吾

まうう雪ゝう多の山人や山さうう　太乙

色に出ゝ岩乃小松のしうれ小　太岩　生地

雨の後しうれ僧ゝをみちか　百合

山沢や水ゝう涼しうれを見　居来

雪の中宿乃中ゝる多ゝう船　詩雀

垣を隔ゝ老ゆゝうなう桃の花　傍助

菱もうち吹くゝ夕アラ船　泗筌
乱るゝもおもしろ萩乃花ゝ　羽毛

伽とれく桂ゝ岑ゝ秋のくれ　城南寺西　秦支
体ふて居迄を茫茫ーろふ　良水
さかゝーや聖されの馬乃歯を　春人
広きくの高さ四くの高ゝ那　桃里
芳ゝくや憂さ出ま青北あ奏　宇治原野　菊

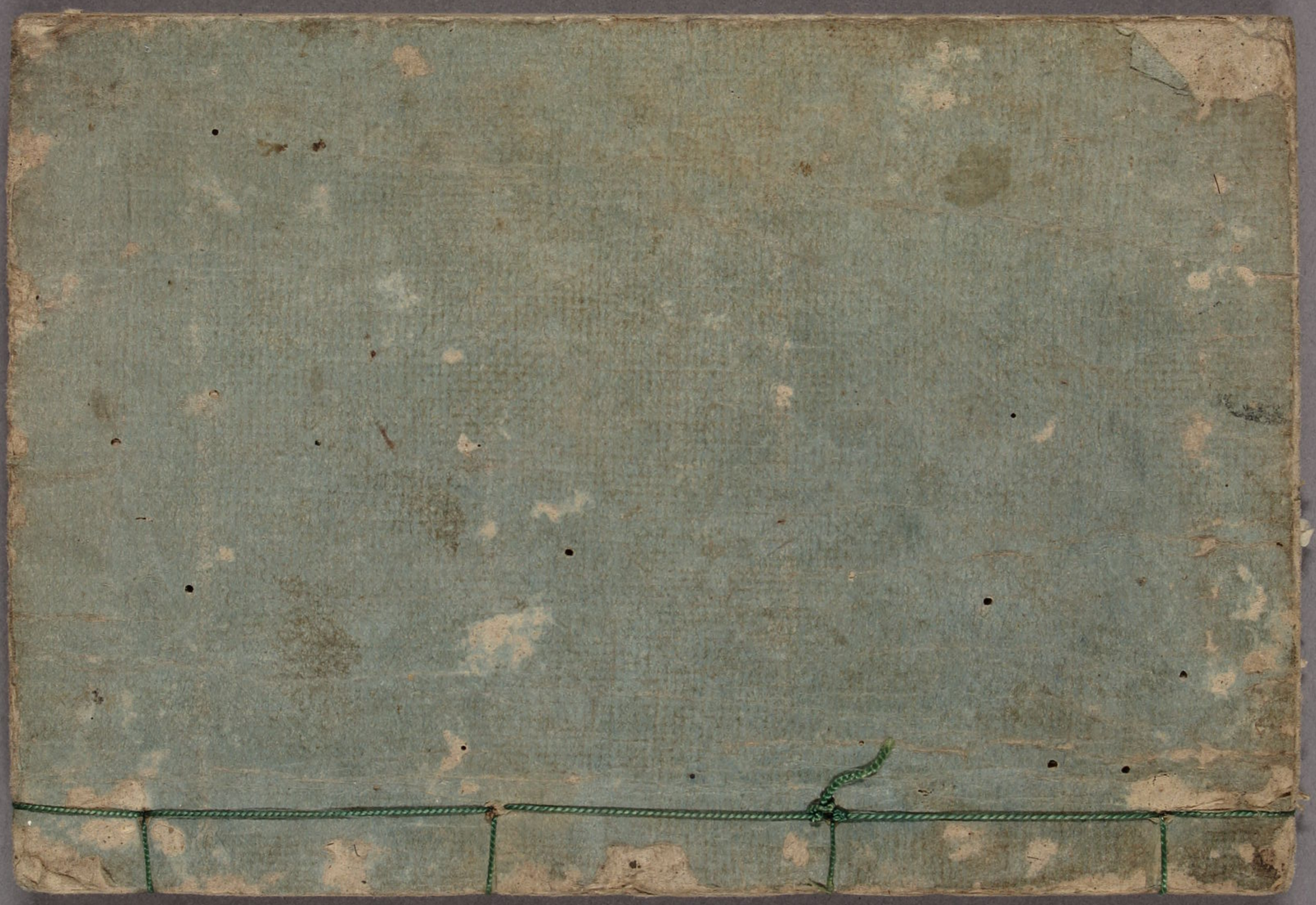
、
定おき命ゝ　洛　美角
ーー後の月

長閑さに度もさゝ色ぬ蔦紅葉　儿董
水仙や小坂乃ぬ日のゆこてろ　定雅
放ちやる色乃高つく柵ゝ那　呑溟
ゝしあ井の雲乃高し玄の石　蓋岌
ゝりや素のあゝさの秋ーゝ北　玄化
風や見上新塔ゝ月細ー　蘭山
菊見ゝる立やを壁をゆゝ　茶合
麻笑ーくかゝたゝも実ふ色　女栩紫
事ゝやゝり事見ゝ松の本絵ふ　斗醉

、

おくれ〳〵朝ゝ夕夕おきり夕ゝ　浪花　北野

月ひとゝ月おちこち花の咲る　正名

菊乃香集終

菊終